

令和3年度北海道地区7国立大学法人工事入札監視委員会定例会議議事要旨

開催日及び場所	令和3年12月20日(月) Web開催	
委員	委員長 菊地 均(学識経験者) 委員 後藤 正典(公認会計士) 委員 佐藤 昭彦(弁護士) 委員 白石 悟(学識経験者)	
審議対象期間	令和2年10月1日～令和3年9月30日	
抽出案件(合計)	9件	(備考) 審議の前に、今年度の委員長を互選により菊地氏に決定した。
工事(小計)	8件	審議を開始するに当たり、佐藤委員から、今年度の審議対象案件の抽出の考え方について説明があった。
一般競争 (調達協定対象工事)	0件	抽出案件の個別審議については、各発注機関の担当者から説明を行い、質問等への回答を行った。
一般競争 (政府調達協定対象工事を除く)	7件	次回開催時の案件抽出について、白石委員が指名された。
通常指名競争	0件	令和4年4月1日に小樽商科大学、帯広畜産大学、北見工業大学の3大学が経営統合して北海道国立大学機構になることに伴い、委員会の協定書、実施要項の改定が必要となった場合は、メール等による持ち回りで検討いただくことになるとの説明があった。
随意契約	1件	
設計・コンサルティング業務	1件	来年度の当番校は3大学の経営統合で何らかの変更がない限りは帯広畜産大学であるとの説明があった。
委員からの意見・質問、それに対する意見等	意見・質問	回答
	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による意見の具申又は勧告の内容	・北海道大学の電気関係の保守契約と小樽商科大学のII期工事のように、先行する契約に縛られて、ここだけの議論では結論が出ないものが含まれているため、次回以降は、審議案件と一体不可分の工事等については、前提となる工事等に関する補足資料を準備することとされたい。	

質 問	回 答
<p>1. 審議対象件数及び契約金額一覧について (基幹校より説明)</p> <p>・特になし</p>	
<p>2. 点検事項該当案件一覧表について (基幹校より説明)</p> <p>・特になし</p>	
<p>3. 抽出案件の考え方について (佐藤委員より説明)</p> <p>・一昨年の定例会議において、北海道大学から3件、その他の6大学から各1件ずつ抽出することとなった。この方針に沿って北海道大学から3件、6大学から各1件の合計9件を抽出した。</p>	
<p>4. 建設工事における抽出案件の審議 (1) 競争入札において応札者が1者のみの工事 1. 【北海道大学】病院無停電電源装置等更新工事</p> <p>・入札のスケジュールがお盆休みを含み、かなりタイトな印象を受けた。この時期でないといけない事情があったのか。</p> <p>・参考見積を徴取した上で進めたということか。</p> <p>・競争参加資格として求める同一工事の規模について、50キロボルト以上という形で設定しているが、これは大学病院以外の民間病院であっても対象となるのか。この制限を付けることによって参加できる業者の幅が必要以上に限定されることはないか。</p> <p>・今回の案件の電源装置のサイズから見て、同程度のサイズを施工した業者でなければリスクが高いと考え、実績の規模も決めているということか。</p> <p>・1億2700万円で今回落札した業者の1回目の入札価格が1億3200万円であり、金額の乖離がある。この金額の差は、業者の利益を削ったのか、それとも当初必要と考えていたものまで省いたものか、実情を説明願いたい。</p>	<p>・予定価格算出の際に、メーカー4者から見積書の徴取とヒアリングを行ったが、半導体不足に伴って納期が非常に長く掛かるという説明を各社から受けたため、早期発注を行う意図があった。</p> <p>・予定価格には3者以上の見積書を徴取して、その中から一番安価なところを予定価格として採用している。今回は4者から見積書の徴取及び納期に関するヒアリングを実施している。</p> <p>・本件で設定した同一工事の規模については、公共施設である病院を問わず、民間の病院でも問題なく、含めての設定となっている。</p> <p>・その通りである。</p> <p>・ヒアリングは行っていないが、企業努力によるものと推察される。ただ本件落札額が最低のボトムラインであるとも聞いておらず、業者としてもある程度許容の範疇なのではないか。</p>
<p>4. 建設工事における抽出案件の審議 (1) 競争入札において応札者が1者のみの工事 2. 【北海道大学】工学部旧機械棟上部とりこわし工事</p> <p>・落札価格と予定価格の差が5万円しかない。実際の工事の費用は入札額が約400万円低くなっているのに対して、他の費目のところで高くなっている。特に共通費等について金額のつくり方は一定の法則に基づいているのか。</p> <p>・端数がきれいになるようにするというのもその指針には入っているのか。</p>	<p>・共通費の出し方については、国土交通省が定める共通費の算出方法に基づいて積算している。</p> <p>・1円の単位まで残して予定価格にすると事務処理の問題があるので、有効桁数、上から4桁ぐらいまで等の決めは大学で行っている。今回の場合は有効数字5桁としている。</p>

質 問	回 答
<ul style="list-style-type: none"> ・受注者が作成した工事費の内訳表は詳細なもので、数量等もかなり細かく入っているが、発注側で示したもののか、受注者、契約者が図面を見て算出したものか。 ・入札で2者の中で相当乖離があるのは、(参考数量を参考にして算出した)数量に対しての単価の取り方に差がかなりあったということなのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図面を配布するに当たって、数量も公開している。図面と数量を参考数量という形で公開して、業者に渡しているもので、業者がその数量を参考にして予定価格を作成していると思われる。 ・会社によって処分費の見方とか、数量は同じでも処分先によっては単価が違う場合もあるので、その辺が大きく差が付いた理由と思われる。
<p>4. 建設工事における抽出案件の審議 (5) 随意契約のうち少額随契でない工事 3. 【北海道大学】変電所受変電設備機器構成部品取替工事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の保守については、定期的な保守であって、何か不具合があつてというわけではないのか。 ・随意契約は致し方ないとして、業者の求められるがままにメンテナンスをするという形だとどうかと思う。実際に今後、このプラントの更新を考えられているのかどうかであるとか、導入したコストとの対比で、こういった更新時に1億円ぐらいのお金が掛かるということは果たして経済合理性があるのか等、色々な側面からこういった随意契約にならざるを得ないものについては見直しをしていくという必要があるのではないかと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業者から、部品の寿命が来る前に何年で交換を推奨するという提案を受けている。それに基づく交換である。壊れているものを更新するというよりは、(機能を維持するために)事前に交換してしまうという発想である。 (このコメントは本学に対し回答を求める趣旨のものではなかったが、以下に本学の見解を掲載する。) ・本学では、本件「特別高圧受変電設備」のような重要インフラ設備の保守や更新にあたっては、常に信頼性の高い設備として維持することを目的に、予防保全重視の整備を行うこととしている。このため、設備を構成する各々の機器の耐用年数を参考に、本学の規程に基づいて行う年次点検の結果などを評価し構成機器毎に更新等の時期を見極め、計画的にメンテナンス等を実施している。 本件についても、推奨更新時期である10年を超え、15年を経過して運用していたところ、自らの点検評価結果等に基づき、適切な実施時期であると判断し、内容、経済合理性等を十分検討した上で実施した工事である。
<p>4. 建設工事における抽出案件の審議 (2) 競争入札において1回目の入札で落札率が99%以上の工事 4. 【北海道教育大学】旭川校ボイラー室改修工事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予定価格の算出に当たって、塗装費がかなり大きく違ってきているが、工期も当然当初の予定だったということもあって、300万円に近い金額にならなかったのは何か理由があるのか。 ・現場管理費、一般管理費が落札価格の中には見積もられてないが、これについてはどのような考えか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共工事積算基準に従い、複合単価資料、建設物価資料、施工単価資料等の資料の他、見積書(3社以上)を確認・精査し予定価格を作成している。差が発生した要素として、地域性や時期的なものと思われる。 ・共通仮設、現場管理費、一般管理費については文科省の積算基準に基づいて積算している。逆に民間の場合は、一式で出ているため詳細まで判からない。 今回の工事内容は、仕切り壁の無い工場の様な建物であり、一般的な工事管理の様に多数の部屋や共用部等が無いいため、一般的な積算基準に合わない部分があり差が出たと考える。

質 問	回 答
<p>4. 建設工事における抽出案件の審議 <u>(1、4) 競争入札において応札者が1者のみの工事かつ入札参加者に対して低入札業者の割合が80%以上の工事</u></p> <p>5. 【室蘭工業大学】基幹整備（空調電源設備）工事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予定価格算定のプロセスにおいて見積もりは取っているのか。 ・ この3者は地元室蘭の業者なのか。入札してきた3者は地元か。 ・ 盤の価格が安く入ったというようなご説明があったが、予定価格と比較すると、動力幹線の金額が高くなって、分岐がだいぶ安くなっている。盤の価格は分岐の方に計上されるような内容なのか。この幹線と分岐のバランスが、予定価格と実際の内訳書の金額の分類でちょっと違いがあるが、その辺はどういった関係になるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 盤メーカーから3者から見積もりを聴取して、今回本学が採用した一番安い盤メーカーではないが、この業者は2番目に安い盤メーカーを今回納入したところである。そのため本学の定価見積りに実勢掛け率を掛けて算定しているが、やはり流通的には各業者のノウハウがあるのかなと考える。 ・ そのとおりである。 ・ A、C棟の方については、内訳を作成する上で、本学としては動力幹線の方に盤の金額を計上していたが、施工業者の方の内訳予定価格では、動力分岐の方に計上しており、こちら予定価格との差異が約200万円程度出ている。A、C棟と同様にN棟も動力分岐と動力幹線の部分が、盤の計上する部分が違って、大きな差が出ている状態である。 直接工事費全体の費用において約300万円差がある。こちらについて比較すると、だいたい盤の金額で300万円程度の差が出ていて、実際の金額差という形になっている。
<p>5. 設計・コンサルティング業務における抽出案件の審議 <u>(1) 競争入札において応札者が1者のみの業務</u></p> <p>6. 【小樽商科大学】(緑)3号館改修(II期)設計業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5者も説明を聞きに来たのに1者しか参加表明されなかったというのが、そのことについて説明がなかったが、分かる範囲でお聞かせ願いたい。 <p>・ やっぱりI期、II期というのはいろいろな都合で分けるしかなかったとは思いますが、II期工事となるとやっぱりI期工事のところはどうしても有利に働くので、致し方ないのか、いいのか悪いのか分からないが、少し疑問が残るところではある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理由としては大きく2つあるかと思う。 まず1つは、工事業者と同様に設計事務所も技術者がいないということで、人材不足というのを設計事務所からも聞いている。そのため実際に、入札または契約が終わった後に、参加してこなかった業者に聞くと、実はほかの仕事を取ったので、今回参加できなかったという話を聞いているので、慢性的な技術者不足というのが1つの原因であると考え。 ・ もう1つは、こっちの方が大きな要因かとは思いますが、業務名称を見ると分かると思うが、3号館改修のII期という工事の設計業務になっており、1年前にI期工事を行い、同様の内容で設計業務も外注している。そこでI期工事の設計業務を請け負った業者が今回参加をしてきたが、I期工事の設計業務はその業者が契約しているので、なかなかその他の業者が入ってきづらいということもあるのではないかと本学では考えている。

質疑応答時に「後日の回答」としたものの

質 問	回 答
<p>4. 建設工事における抽出案件の審議 (5) 随意契約のうち少額随契でない工事 3. 【北海道大学】変電所受変電設備機器構成部品取替工事</p> <p>・当該工事について、契約金額が妥当であるか判断出来るよう、機器本体の取得原価と取得時期を示してほしい。この場で回答できなければ、後ほど補足をお願いしたい。</p> <p>(右記の回答を受けて)</p> <p>・本件の保守交換費用は、取得価格と経年を考慮すると、一般に妥当な水準に収まっていると判断した。</p> <p>・当該受変電設備は学内に1箇所なのか、複数箇所有るのか。 また、年1回程度学内を停電させて行う保守点検等は、病院を持っている北大でもあるのか。</p> <p>(時間の関係で後日の回答(右記)となった。)</p>	<p>・今すぐ資料の提示は難しいので、後日回答する。</p> <p>(以下は確認のうえ後日の回答)</p> <p>・当該受変電設備本体の取得時期は2002年であり、取得価格は645,127,000円となっている。なお、次年度から修理や保守等密接不可分な内容については、可能な限り審議案件の妥当性を判断出来る内容を提示する。</p> <p>(以下、後日の回答)</p> <p>・本学札幌キャンパスにおいて、特別高圧受変電設備(66kV)は当該設備の1箇所設置されており、ここで6.6kVに変換している。各部局へは、ここから高圧ケーブルが配線され、学内各所に点在する変電設備により、低圧(100V)に変換している。 また、本学でも年に1回、保守点検のため停電日を設けており、この時を利用して本件のような設備更新の工事を行っている。病院の医療機器、24時間稼働させている研究機器、フリーザー等については、必要に応じて自家発電装置やドライアイス等を使用し、停電による影響を最小限に抑えている。</p>